

Title	巻頭言
Author(s)	小泉, 光恵
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1985, 58, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/65653">https://hdl.handle.net/11094/65653</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 巻 頭 言

大型計算機センター長 小 泉 光 恵

この度、引続き大阪大学大型計算機センター長を務めさせて頂くことになりました。前任期中と同様に関係各位の御支援と御協力をお願い申し上げます。

さて、昨年の暮には高速フォートラン・プロセッサを導入して長時間ジョブの高速処理を図るなど、センター・システムの増強を行って参りました。しかし、演算処理に対する需要の伸びは年々30%にも及んでいるため、主システムであるACOS 1000は、殆どその能力の限界に達し、TSSの応答時間の悪化等を招いております。短期的には機器構成の見直しと機器の増強によって応答時間の短縮を目指さざるを得ない状況にあります。

一方、中期的な展望を開くために、昨年5月に「将来システム検討懇談会」を設置し、A・Bの2部会を置いて討議を重ねて頂いております（大阪大学大型計算機センター・センターニュース、VOL. 14, No. 2, P.30 参照）。このうちA部会からは、今年の1月に早くも中間報告を得ることができ、将来システムの性格やスーパー・コンピュータについてのご提言を頂きました（大阪大学大型計算機センター・センターニュース VOL. 15, No. 1, P.30 参照）。A部会では、引続きいくつかの問題について討議して頂いておりますが、最終報告を待つまでもなく中間報告のご提言の中から順次実行可能なものは実現に移し、ご報告に盛られた理想に少しでも近づけるべく努力する所存であります。また、少し遅れてスタートしたB部会においても、サービス体制の整備や研究開発体制の強化について既に実質討議を終え、まとめの作業に入っている状況であると同っております。これについてもA部会の場合と同様に、その実現を目指す所存であります。国家財政が極めて厳しい条件下にある昨今において、センターの機能強化を図るためには関係各位の御支援が是非とも必要でありますので、重ねて御協力をお願いする次第であります。

最後に、関係各位を始め、将来システム検討懇談会のご尽力により、来年度早々にスーパー・コンピュータSX-1を導入することができるようになったことをご報告して、センター長再任の挨拶と致します。